

症例報告

膵がん①

手術不能膵癌に対して抗がん剤と樹状細胞ワクチン療法を併用した1例

No. 1

セレンクリニック名古屋
院長 小林 正学

Point



抗がん剤治療に免疫治療を併用する事により著明な改善効果がみられた症例です。治療後は上腹部痛が消失し、趣味の登山にも出かけられるようになりました。

Case

患者：60歳代、女性

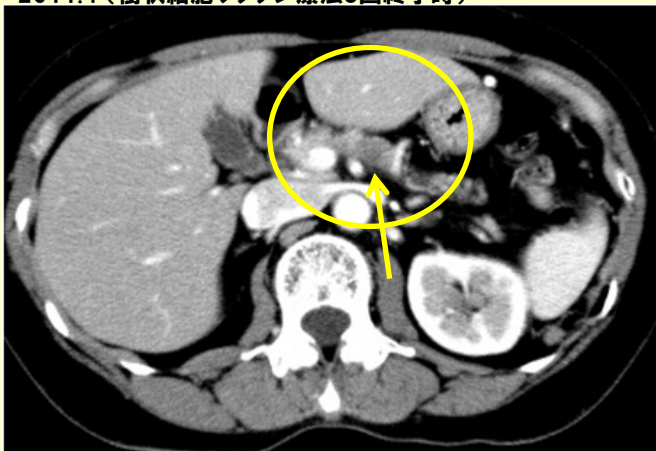
診断名：膵体部癌 (T4.NO.MO) Stage IVa

現病歴：平成22年8月上腹部痛、背部痛が出現し近医を受診。精査にて、手術不能膵体部癌と診断され同年9月より抗がん剤治療 GEM+TS-1開始となった。免疫治療法の併用を希望されて、11月より開始した。

2010.8 (樹状細胞ワクチン療法前)



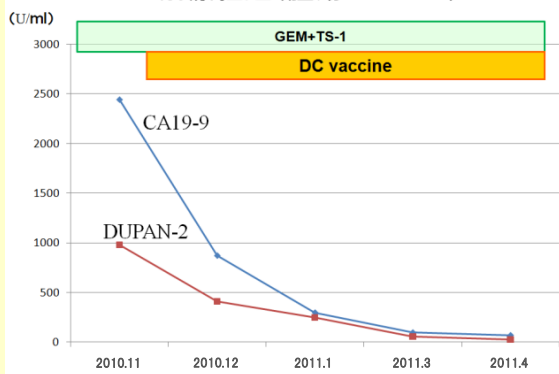
2011.4 (樹状細胞ワクチン療法8回終了時)



免疫治療内容

- ① 樹状細胞ワクチン療法 (人工抗原WT1*2402+MUC1)
- ② OK432+レンチナン
- ③ 活性化リンパ球療法 4回併用

治療経過(腫瘍マーカー)



免疫機能の変化

	2010.10 (DC療法前)	2011.2 (DC療法後)
T細胞数 (/μl)	1207	1826
キラーT細胞数 (/μl)	188	597
WT1(2402)-CTL (%)	0.03	0.10
NK細胞数 (/μl)	101	410

Results and Discussion

膵癌は極めて悪性度が高い癌の一つである。画像診断が進歩した今日でも、多くの症例が切除不能な状態で発見されることが多く、予後は不良である。使用可能な抗がん剤も限られ、抗がん剤の奏効率(治療効果)は、GEM単独で10%、TS-1+GEM併用で32.2%と低く、手術不能例の1年生存率は、わずかに9.5%である。今回はTS-1+GEMに併用して樹状細胞ワクチン療法を行った。治療により腫瘍の縮小とともに腫瘍マーカーの低下を認めた。免疫機能検査ではキラーT細胞*1やNK細胞*2が増加し、さらにWT1特異的キラーT細胞*3の増加も認めており、本症例に対して樹状細胞ワクチン療法も治療効果に寄与した可能性が示唆される。

用語：*1 キラーT細胞：樹状細胞から抗原提示を受けてがん細胞を傷害するリンパ球の一種。*2 NK細胞：がん細胞を傷害するリンパ球の一種。
*3 WT1特異的キラーT細胞：がん抗原WT1を発現しているがん細胞を特異的に傷害するキラーT細胞。